

環境保全部会先進地視察

水はいのち

「みずのまち」
郡上八幡に学ぶ



名水・宗祇水…飲み水・野菜・洗濯と分けて利用

それは、あまりにも衝撃的でした。

11月17日、流響の里(レストラン)において郡上八幡を訪れた私たちに「さつきの会」古池孝也会長が「水は将来にわたって何にも勝る宝」と、35年も前に10人の町内有志によって「さつきの会」を立ち上げました」との冒頭の一言でした。

「さつきの会」会員は今日70名ですが最高時は150名を超える発展を遂げ、この間、川をきれいにする清掃活動をはじめ化学洗剤や農薬の使用抑制をすすめて、「水を守る」といったことを次の世代に伝えていくために、「さつきの会・瓦版」を発行し、全町民に知らせていく活動を展開しています。

(次ページに続く)



「さつきの会」会長の古池さん

くらしにいきる水

汚染がすすんでいた、町の中心部を流れている長良川の最大支流吉田川の水質が、10年前には最もきれいなAAランクに回復しました。さらに、杉の植林によって保水力、浄化力の低下した山や森を広葉樹に変えるよう行政にも働きかけています。

また、市提案の河川改修工事計画は、たとえ魚道(注1)を設けると

してもコンクリート護岸はノー、県提案の護岸をコンクリートで覆う災害復旧工事も駄目とハッキリ意見を述べて、水と自然にやさしい内容に計画変更させてきました。

とりわけ優れたものは、毎年『さつきの会』では、児童にたいして水、川、魚を大切にしようとの願いをこめた本を50冊程度作成し配付しています。これには、数十万円かかりますが、次代を担う子どもたちの環境意識向上に役立ててもらうために自費出版をしています。

郡上八幡における水を守るという意識が町民に共有されていく姿を聞いた後、ボランティアガイドの案内でまち中を散策しました。

基盤目の城下町の道路の両端には、350年前に造られたという疎水が清冽な水の流れとなって今なお昔日の面影が息づいていました。



疎水の説明をするボランティアガイドさんと堰板

そこには、各戸が保管している堰板(注2)をはめ込んで水位を上げて洗い物に利用したり、屋敷内に水を引き込んであるカワドと呼ばれるもの、また、ところどころに上段は飲料用に、中段は野菜などの洗い場に、下段は汚れ物洗いとして利用してきた三層の水舟があり、いずれにおいても残飯や食べ物の残り滓は魚の餌になるようにと、見事に水が利用されるようすが分かるもので、先人の知恵を垣間見ることができました。

「もみじ葉の 流るるたつた白雲の
花のみよし野思ひ忘るな 常縁」
「三年ごし 心をつくす思ひ川
春立つ沢に湧き出ずるかな 宗祇」

環境省が「日本の名水百選」の第1号に指定した宗祇水にも水舟があって、539年前にタイムスリップした気分になりました。

この数百年の歴史は、掃除はもとより水を育む山林管理や維持まで、一つの掟のような厳しいルールで今日まで守られてきたかと思うと、時代時代を生き抜いてきた先人たちに頭の下がる思いになりました。



清流吉田川

「水をきれいに」はみんなの願い

バス2台、79名の参加者らは、「街なかでは、足元のカンテラで照らしてんのは参ったなあ」、「信号やら広告も道から控えてるし」、「自転車かて、道を邪魔せんように銘々がちゃんと管理してるわ」、「市民のみんなが住みよいまちづくりに率先しているのがうらやましい限りや」と口々に。

伊賀上野は高台にあって流水を目に触れることが少ないので、環境保全部会



鯉の泳ぐ小川



が取組んでいる矢谷川

の清掃活動もどこか遠い

ことのような錯覚を覚えますが、東部地域住民の生活雑排水が垂れ流されているのが現状です。例え条件が違っても郡上八幡の人々に学ぶことが今こそ大切との思いに駆られた参加者一同でした。と、同時に“水こそ命の源”という認識を新たにしました。そう遠くない日に“堂のすめる川”にしたいものです。取材を通じて環境保全部会の今回の企画が時宜を得たものであったと確信しています。

(取材:杉本秀行)

注1 魚が遡上できるように造られた階段状の水路

注2 水をせき止める板

崇広中学校 夢と希望と笑顔あふれる崇広中

校舎は国史跡「上野城」「崇廣堂」の敷地内にあり環境抜群で平成14年2月に新築されました。訪問させていただいた日は雪がちらちらと舞う寒い日でしたが、運動場でサッカーの練習中の生徒さんが「こんにちはー」と元気よく挨拶をしてくれる中、松下校長先生が暖かい笑顔で迎えてくださいました。



松下校長

2010年度のマニフェストは「夢と希望と笑顔あふれる崇広中」とし、授業づくり・なかまづくり・自分づくりの3つの柱をたてています。たとえば朝の10分間の読書や基礎学習充実のための時間を設けています。人権学習を基礎に「校内ヒューマンライツ」などで差別やいじめを許さない仲間の輪を広げています。また、職場体験などを通して将来やりたい仕事や夢を持たせ、その実現のためにどうするのか生徒自身に考えさせたいとも話されました。



中学校南面

保護者の皆さんには、家庭学習のできる雰囲気を作ってくださいと、人と人のつながりを作るような話ができれば学校としては大変うれしいことだと思っています。

中学生の子を持つ母として、学校と保護者が連携して子どもを育てていくことの大切さを改めて感じながら学校を後にしました。

(取材：西出直美)



地域ぐるみのヒューマンフェスタ

メモ

生徒数：406人、学級数：15、教職員数：39人
校区：東部地区から農人・赤坂・玄蕃・寺・平野・城北の各町、西小、久米小、新居小・長田小

大人が変わらな子どもは変わらん 人権啓発部会

今年の人権落語の講師に笑福亭仁鶴の弟子、笑福亭仁嬌（にきょう）さんを招きました。数ある弟子の中でもハイレベルの売れっ子の一人だそうです。

第1部は講演で、思春期のわが子がいじめにあったときの対応として、良くも悪しくも親の毅然とした態度が子どもを立ち直らせることができるのではないかと子どもは大人の背中を見て育つといいます。周囲の環境が子どもにとっていかに大切なことであるかを体験から話されました。

将来を担う子どもの育成は家庭だけの問題ではありません。家族関係が希薄になりつつある中で地域の連帯性も重要ではないかと考えさせられました。

第2部は落語「天狗のさばき」で会場を笑いの渦に包みこみました。

1年に一度、世界人権宣言記念日にあわせたこの事業、東部地域に定着し始めたようでうれしく思いました。

(取材：田山干城)



わが町 緑ヶ丘南町第二自治会

～探訪シリーズ 6～

安心して笑顔で暮らせる町づくり目ざして…

「緑ヶ丘南町」。名前の通り緑があり、道路も広く一戸建ての住宅も多く、陽が降り注ぎ本当に住み良い町です。町内には、子供達が安全に遊べる大きな公園小さな公園が6ヶ所もあります。この公園の管理には、年間数回にわたって自治会の役員の方、住民のご協力で草刈を行っています。



特に昨年は早くから暑くなって草の生えるのが早くなって草刈が大変でした。また、自治会行事として町内清掃を春と秋に行っております。



さらに町内行事も、成人式のお祝いは紅白の饅頭をお渡しし、また、敬老会の方々のお祝い、秋には子供達の御神輿、東小学校体育館を借りての「お楽しみ大会」、防災訓練参加、年末夜警など多岐にわたっています。



ほかにも、第一町内会の女性との研修旅行、手づくり和菓子教室、自治会親睦旅行等も実施しています。

特に平成18年、南町住民によるボランティアグループ“みんなの会”が立ち上げられて、いきいきサロンでの食事作り、高齢者障害者の方達への配食弁当作り、東小学校児童との交流会を実施。また緑風会（老人会）との連携による登校時の交通安全指導、声掛け運動、世代間交流、等々の活動が展開されています。同時に、民生児童委員の方々には、社会福祉の為に大層ご苦勞をお掛けしています。



このようにボランティア活動をしてくださっている方々、自治会役員の方々に紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



今後も町内の皆様が安心して笑顔で暮らしていける地域社会を目指して、頑張ってくださいませ様ご協力をお願いいたします。

～不審者の侵入に備えて～



子どもたちは体育館で不審者対応の「実技指導」を受けました。

上野東小で防犯訓練

12月2日（木）、午前9時から防災防犯交通安全部会と上野東小学校が合同で、児童・教職員、保護者、自治協役員、伊賀警察署員ら約650人が参加して「不審者侵入防止訓練」を行いました。

訓練は、刃物を持った犯人役の警察官が授業中の4年1組の教室に侵入、発見した吉村先生が「不審者です。子どもたちはすぐ中庭に逃げなさい」と児童に安全確保の指示を行い、



教室では先生らが刺又などを使って侵入者役の警察官を取り抑える訓練をしました。

児童らはすぐに避難。緊急事態発生に駆けつけた応援の先生方は、制圧用具の“刺又”で侵入者に立ち向かい教室から出さないよう犯人確保の訓練を行いました。

この後、児童らは体育館で不審者対応には「いかのおすし」がとても大事ですよと教えられ、真剣な様子で勉強していました。

（取材：西出直美）

注

「いかのおすし」

知らない人についていかない 知らない車にのらない
おお声を出す すぐ逃げる しらせる

パワースポット



東部地区に家を構えてから4年。東部住民の自覚のないまま生活していましたが、本年度広報部員となり取材を通じ、この地域のさまざまなお取り組みを知る機会ができました。私には3人の子どもがおりますが、安心して通学・生活できる街がいつまでも続くことを願っています。

（船永 真知子）



編集後記